

手足口病



名まえのとおり手のひら、足のうら、口の中に小さな水ぶくれや口内炎ができる病気です。

病原体：コクサッキーウイルスA群、エンテロウイルス71など

潜伏期間：2～7日間

感染経路：飛沫あるいは接触感染

好発年齢：おもに乳幼児（5歳以下が90%をしめる）



《**症状**》手のひら、足のうらに米粒大の小さな水ぶくれ、口の中に口内炎ができ、1週間以内に良くなります。30%前後に微熱（ウイルスの種類によっては高熱）が出ることがありますが1～2日で解熱します。口内炎はしばしば痛みが強く、食欲が落ちる原因になります。また乳幼児がかかると、皮膚症状はお尻のまわりにもできます。

《**診断**》特徴的な病変から診断します。

《**治療**》手足口病に使われる薬はありませんが、症状に応じて解熱剤などの対症療法が用いられる事があります。小さな子どもさんでは口の痛みから水分がとれずに消耗し、入院して点滴を受ける事もあります。塗り薬はふつう使いません。

《**合併症**》まれに無菌性髄膜炎、他に小脳失調、中耳炎、心筋炎が知られています。

※家庭での注意点※

- ・口の中が痛いときはしめないものを与えましょう。熱いもの、塩味や酸味の強いものは避けましょう。
- ・熱がなく、元気がよければ入浴は問題ありません。



「こんなときはもう一度診察を！」



「学校・幼稚園・保育園は？」



- ・水分を十分に摂れていない
- ・ぐったり、ぼんやりと元気がない
- ・高い熱が3日間以上続く
- ・その他、ふつうの手足口病の経過（上に書かれているような）ではなくなってきた

・熱が下がって口内炎が良くなれば、登校出来ます。